

我が家のエピソード(6)

有限会社エケティエルシステム 代表取締役

横浜都筑区ターワンチャペル会員

大村 信蔵

性について考える

今回は性の話について、考えてみようと思います。

結婚するまで私は横浜駅から歩いて10分程の所に住んでいました。ですから繁華街に近い場所で生活していたわけです。すると小学生の低学年からどのようなことが起こるか、皆さんはお分かりで



でしょうか。性に関していろいろな情報を耳にしたり、目にしたりするわけです。上級生からの情報も多かったです。性への好奇心を高めるいかかわしい自動販売機もありました。当時を振り返るとあまり良い環境ではなかったと思います。正しい性の知識ではなく、興味本位のいいかげんな情報が大半でした。

学校においては、性に関しての話について、男子は除外されていた感じがします。女子は生理があるので、特別な授業が小学5年生でありました。小学6年生でやんちゃな男の子は、女の子から女性に変わってくる体の変化を目にして、「お前、血でただろ?」という声を耳にしたのを思い出します。完全なセクハラです。

小学6年生の男子の考えはまだまだ子どもで、女の子たちの体の変化に対する微妙な心の状態を理解することはできません。一方、体の変化を感じてきている女の子にとっては、とても恥ずか

しい体験だったと思います。「何のこと言ってる!」ときつく言い返すことのできる子もいれば、黙っている子に対しては、そのやんちゃな男の子はさらにはやし立てていました。その行動の背景には、正しい性に関する知識を教わることができなかったことがあるのではないのでしょうか。

「明るい家族計画」という自動販売機が当時、家の前にありました。中学1年生頃だったか、よくキャッチボールをしてくれた年上の知人に、わざと「この自動販売機は、何?」と聞いたことがあります。大人の人はどのように答えるのか? 興味がありました。年上の彼は、「知っているでしょ?」「知らないから、聞いているんだよ」と私。結局、明らかな答えは帰って来ず、お兄さんがかわいそうだから、話を変えたことを思い出します。また、中学3年生になると、女子だけの授業がありました。男子は「なんだ?何があったんだ?」と大騒ぎ。あとで聞いてみると、自分の体をどのように守るか?ということでした。横浜駅から歩いて12分程の中学校。学校の先生の立場からすると、何があってもおかしくないから、自分の身を守る方法を教えていたようです。何を教わったのかを女子に聞いてみると、避妊具を持ち歩くことを薦めていたようでした。なんか変だなと思いました。